

学校整備の在り方に関する基本方針  
(令和8年度策定) (素案)

令和8年度～令和17年度  
江津市

## 目次

1. 学校整備の在り方に関する基本方針（令和8年度策定）の概要 .....	1
(1) 基本方針の背景と目的 .....	1
(2) 基本方針（令和8年度策定）の位置付け .....	1
(3) 基本方針（令和8年度策定）の対象期間 .....	2
2. 学校整備のあり方に関する基本方針（平成20年度策定）及び 第2次学校整備再編基本計画の振り返り .....	3
(1) 学校整備のあり方に関する基本方針（平成20年度策定）の振り返り .....	3
(2) 第2次学校整備再編基本計画の振り返り .....	4
3. 国・県の教育政策の動向 .....	5
(1) 国の教育政策 .....	5
(2) 県の教育政策 .....	5
4. 江津市の小学校・中学校の現状 .....	6
(1) 小学校・中学校に係る基礎データ .....	6
i. 保護者目線による基礎データ .....	7
ii. 児童・生徒目線による基礎データ .....	12
iii. 地域目線による基礎データ .....	16
iv. 行政目線による基礎データ .....	16
(2) アンケート調査結果 .....	20
(3) 地域コミュニティヒアリング .....	28
(4) 結果の考察 .....	28
5. 江津市が目指す学校教育と学習環境 .....	29
(1) 主体的、協働的に学び続ける人づくりの推進 .....	29
(2) 地域とともに新しい価値を創造する人づくりの推進 .....	29
(3) 多様性を認め、自他を尊重する人づくりの推進 .....	29
(4) 学びの環境整備及び体制づくりの推進 .....	29
6. 第3次江津市学校整備再編を検討するにあたって考慮すべき事項 .....	30
(1) 学校教育の充実に向けた新たな学びの形について .....	30
(2) 地域の実態に応じた学校の適正配置について .....	31
(3) 学校と地域との連携・協働について .....	31
(4) 学校施設の整備・管理について .....	32
(5) 学校跡地の活用について .....	32
7. 第3次江津市学校整備再編に向けた基本的な考え方 .....	33
(1) 学校教育の充実に向けた新たな学びの形について .....	33
(2) 地域の実態に応じた学校の適正配置について .....	33
(3) 学校と地域との連携・協働について .....	33
(4) 学校施設の整備・管理について .....	33

（５） 学校跡地の活用について .....	33
8. 第３次江津市学校整備再編の進め方 .....	34

# 1. 学校整備の在り方に関する基本方針（令和8年度策定）の概要

## (1) 基本方針の背景と目的

江津市教育委員会では、江津市教育大綱に基づき、すべての教育活動を通じて自分らしさを発揮し、自分とは異なる多様な考えを認め、地域社会に新たな価値をつくることのできる人づくりを進めています。また、市民や子どもたちが持続可能な地域づくりに主体性をもって関わり、自他のウェルビーイングを向上させることができるよう尽力しています。

しかし、昨今の社会情勢の変化、生成 AI の台頭、人口の減少などにより、適切な学級人数が保てなくなるなど、教育環境にも様々な課題が生じてきています。国立社会保障・人口問題研究所による推計（令和5年度）では、令和7年には市内に1,339人いる児童・生徒が、令和22年には約4割減少し、807人となる推計が出ています。

このような中でも、江津市の子どもたちがよりよい生き方を見つけられるような学びの環境はどうあるべきか検討を進め、江津市教育大綱の基本理念である「地域を愛し、共に学び、認め合い、未来を創る人づくり」の実現に向け、学校整備の在り方に関する基本方針（令和8年度策定）（以下、基本方針（令和8年度策定））・第3次江津市学校再編基本計画（以下、第3次基本計画）を策定します。

## (2) 基本方針（令和8年度策定）の位置付け

江津市教育大綱で示す教育ビジョンの実現に向けて、基本方針（令和8年度策定）では学校整備の観点から方針を示していきます。

計画名称	計画期間	概要
第6次江津市総合振興計画  ↓ 即す	令和2年度～令和11年度の10年間 前期基本計画は前半5年間 後期基本計画は後半5年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>市が取り組む「まちづくり」の最上位に位置する計画で、今後10年を見越した行政運営の総合的な指針</li> <li>市が目指す将来像と、将来像の実現のための施策目標、さらに政策目標を実現するための施策を踏査しており、すべての計画は総合計画を基本として策定</li> </ul>
江津市教育大綱  ↓ 即す	令和8年度～令和12年度の5年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の長に策定が義務付けられたもの</li> <li>市における教育、芸術及び文化の振興に関する総合的な目標や施策、方針を登載</li> </ul>
学校整備の在り方に関する基本方針（令和8年度策定）  ↓ 即す	令和8年度～令和17年度の10年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>江津市教育大綱で示すめざす姿の実現に向けて、学校整備の観点から方針を示す</li> </ul>
第3次江津市学校整備再編基本計画	令和8年度～令和17年度の10年間 ※5年で中間評価・検証を実施し、必要に応じて見直しを検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校整備の在り方に関する基本方針（令和8年度策定）に即し、学校整備の具体的な方向性を示す</li> </ul>

### **(3) 基本方針（令和8年度策定）の対象期間**

対象期間は令和8年度～令和17年度の10年間とし、社会経済情勢等の変化があった際には、その都度柔軟に対応していきます。

## 2. 学校整備のあり方に関する基本方針（平成 20 年度策定）及び

### 第 2 次学校整備再編基本計画の振り返り

#### （1） 学校整備のあり方に関する基本方針（平成 20 年度策定）の振り返り

平成 21 年 3 月に策定された「学校整備のあり方に関する基本方針」では、学校規模適正化について、以下の考えが示されました。

##### ①学校規模適正化の検討が必要な学校について

一つの学年において複式学級が生じる恐れがある場合には検討が必要な学校と位置付けます。

- i. 現に複式学級となっている場合は、複式学級の解消
- ii. 複式学級となる可能性がある場合は、複式学級の防止

##### ②学校規模適正化の手法

- i. 学校の再編統合：隣接する複式の学校を統合して、一定規模を確保
- ii. 通学区域の変更：隣接する学校の通学区域の線引きを見直し、一定規模を確保

##### ③通学区域の考え方

学校教育法施行令第 5 条第 2 項（市町村の教育委員会は当該市町村の設置する小学校又は中学校が 2 校以上ある場合においては、入学期日の通知において当該就学予定者の就学すべき小学校又は中学校を指定しなければならない）の規定に基づき、児童生徒が就学すべき学校を定めます。

##### ④検討対象校

以下の状態になる可能性が生じた小学校・中学校から検討対象校としていきます。

- 【小学校】 A：完全複式学級となっている小学校
- B：複式学級が存在する小学校
- C：単式学級の維持が困難となりそうな小学校
- 【中学校】 A：複式学級となる状況が生じている中学校
- B：単式学級の維持が困難となりそうな中学校

##### ⑤児童・生徒・保護者、地域との連携・協力

学校統合の推進役としては保護者の方々を中心に、教育委員会が情報提供するなど、下支えの役割を果たしながら地域の方々に理解を求めていきます。

##### ⑥地理的条件等への配慮

小規模校の検討に際しては、連合自治会などの地域との一体性や主要幹線道路・河川・鉄道・路線バス等の地理的な条件、通学の利便性や安全性などを十分考慮したうえで行います。

⑦子どもたちの意見の反映

検討にあたり、子どもたちの意見も聴く機会を設けます。

⑧既存の学校施設の有効活用

統合の際は、地域での利用を含めて、地元等と協議しながら活用方法を検討します。

## (2) 第2次学校整備再編基本計画の振り返り

平成23年3月に策定された「第2次学校整備再編基本計画」では、以下の計画が示されました。

- ①市内の小学校は、近い将来、江津東小学校、桜江小学校、中部の小学校、西部の小学校の4校に集約するものとします。中学校は当分の間、現在の4校のままとします。
- ②中部の小学校は、郷田小学校、渡津小学校、高角小学校をまとめて統合再編し、西部の小学校は跡市小学校、川波小学校、津宮小学校をまとめて再編し、結論は平成23年度上旬を目標に各小学校保護者と協議して出すこととします。
- ③統合再編に起因する、通学をはじめとするさまざまな課題や具体的な諸問題については、各保護者会と協議を進める中で、平成24年上旬に結論を得ることとします。
- ④各小学校保護者の理解が得られたと判断した場合、自治会を中心とする地元の方々に対して経過報告、及び各施設の維持管理、利用方針を協議します。
- ⑤その他、新たに発生した事項や協議が整っていない事項については、速やかに保護者会と協議を重ねることとします。

この第2次学校整備再編基本計画に基づき、平成28年に跡市小学校と津宮小学校を統合しました。現在は津宮小学校と川波小学校を令和10年の統合に向けて、新校舎の建設を含めて準備を進めています。

今後の課題として、近年の世界的な原材料及び原油等のエネルギー不足や価格高騰・円安等の影響による建築費の高騰が挙げられます。青陵小学校の整備費は、2年前に見込んだ40億円程度から、1.6倍の65億円に膨らみました。

コスト削減のため、民間の活力を活用したPFI (Private Finance Initiative)<sup>1</sup>事業を行うことも有効な手段として考えられます。

---

<sup>1</sup> 公共施設の設計、建設、維持管理、運営に民間の資金とノウハウを活用し、効率的かつ高品質な公共サービスを提供する手法。

### 3. 国・県の教育政策の動向

基本方針（令和8年度策定）は、以下の国・県の教育政策等を参考にしながら策定しています。

#### （1）国の教育政策

国においては、「令和の日本型学校教育」の実現に向け、学びの質の向上や教育環境の整備、学校の適正規模・適正配置の在り方等に関する検討が進められています。

学校の適正配置については「広域化」「総合化」「現代化」の3つの観点を示されており、域内だけではなく周辺の町村を巻き込んだ圏域で検討することや、教育委員会だけではなく首長部局も含めた各町村全体でその地域の未来を考えることなどが求められています。

- ・文部科学省 [令和8] 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置について」
- ・文部科学省 [令和7] 「令和の日本型学校教育」を推進する学校の適正規模・適正配置の在り方に関する調査研究協力者会議
- ・文部科学省 [令和5] 第4期教育振興基本計画
- ・文部科学省 [令和4] 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（最終報告）
- ・文部科学省 [令和3] 「令和の日本型学校教育の構築」を目指して（答申）
- ・文部科学省 [平成27] 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」
- ・文部科学省 [平成15] 公立学校施設整備 PFI 事業のための手引書

#### （2）県の教育政策

県においては、国の方針を踏まえつつ、地域の実情に応じた教育環境の充実や学校運営の改善に向けた施策が推進されています。

- ・島根県教育委員会 [令和7] 「島根県教育振興ビジョン（概要版）」
- ・島根県教育委員会 [令和2] 「複式学級指導の手引き（令和元年度改訂版）」

## 4. 江津市の小学校・中学校の現状

### (1) 小学校・中学校に係る基礎データ

学校整備に関わる多様なステークホルダーと円滑な合意形成を図るために、保護者目線、児童・生徒目線、地域目線、行政目線で本市の小学校・中学校に係る基礎データを整理しています。

#### 第2次学校整備再編基本計画時の児童・生徒数の予測と実績の乖離

第2次学校整備再編基本計画（平成22年）の際に行った推計では、令和8年の児童・生徒数は1,383人でした。

令和8年5月1日現在の児童・生徒数は1,331人で、推計値との差は約4%でした。

表 4-1 住民票による児童・生徒数予測（コーホート変化率法）

年齢	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
15	270	288	235	262	227	230	230	218	225	216	230	205	222	207	194	193	206	178	173	167	163	161	159
14	285	240	263	228	231	231	219	226	217	231	206	223	208	195	194	207	179	174	168	164	162	160	158
13	239	269	230	233	233	221	228	218	233	207	224	209	196	195	208	180	175	169	165	163	161	159	156
12	269	229	233	233	220	227	217	233	206	223	208	195	194	207	179	174	168	164	162	160	158	155	152
11	229	229	231	218	225	215	231	204	221	206	193	192	205	177	172	166	163	161	159	157	154	151	148
10	226	233	217	224	214	231	203	220	205	192	191	204	176	171	165	162	160	158	156	153	150	147	145
9	234	216	224	214	231	203	220	205	192	191	204	176	171	165	162	160	158	156	153	150	147	145	143
8	217	223	215	230	203	221	206	192	192	205	176	171	165	162	160	158	156	153	150	147	145	143	140
7	225	213	230	203	221	206	192	192	205	176	171	165	162	160	158	156	153	150	147	145	143	140	138
計	2,194	2,140	2,078	2,045	2,005	1,985	1,946	1,908	1,896	1,847	1,803	1,740	1,699	1,639	1,592	1,556	1,518	1,463	1,433	1,406	1,383	1,361	1,339

教委推計値	2,092	2,060	2,007	1,986	1,956	1,925	1,911	1,906	1,887	1,853	1,837	1,766	1,697	1,632	1,569	1,508	1,449	1,420	1,392	1,364	1,337	1,310
教委との差	-48	-18	-38	-19	-29	-21	3	10	40	50	97	67	58	40	13	-10	-14	-13	-14	-19	-24	-29

※計算根拠となる人口は、H18,H19,H20の各3月市民生活課発表表(単位：人)

※コーホート変化率法

①「前々年の1歳下人数」と「前年の人数」との比率を前年に掛ける

☆今回はさらに1年づつ前との平均を採用

②20歳人口は「前年の女性15～49歳人口」と「0歳人口」の比率に対する「当該年の女性15～49歳人口」の割合で算出

出典：平成22年第2次学校整備再編基本計画（資料編）

## i. 保護者目線による基礎データ

本市の保育所（保育園）・認定こども園・小学校・中学校・高校の位置関係について、西部・東部・中部・桜江の位置付けを図 4-1 に整理しています。

第 2 次基本計画で西部の学校整備は対応済みで、第 3 次基本計画で中部・東部・桜江の学校整備の方向性を検討していきます。



図 4-1 各地区と保育所（保育園）・認定こども園・小学校・中学校・高校の位置図

出典：(地図) 国土交通省「国土数値情報」を活用

(児童・生徒数) 令和 8 年度学校要覧

## 中長期的な児童・生徒数の将来予測

小学校・中学校別の児童・生徒数の令和 32 年までの長期推計の結果は以下の通りで、いずれの学校の児童・生徒数も減少傾向にあります。

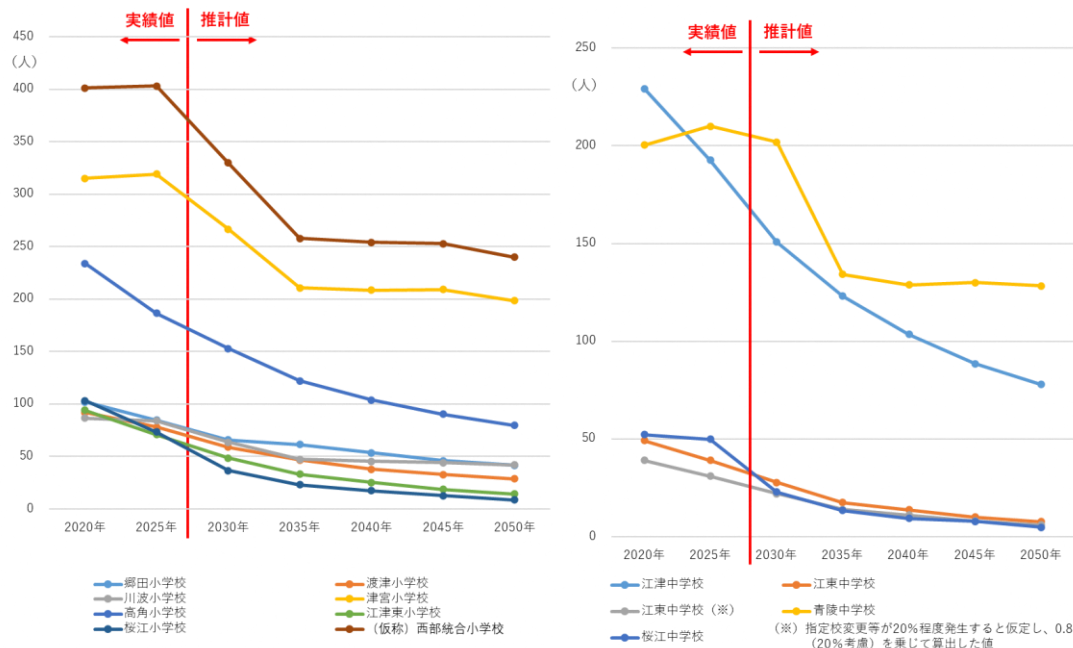


図 4-2 児童・生徒数の長期推計の結果

小学校・中学校別の1学年あたりの児童・生徒数の令和 32 年までの長期推計の結果は以下の通りで、いずれの学校の1学年あたりの児童・生徒数も減少傾向にあります。

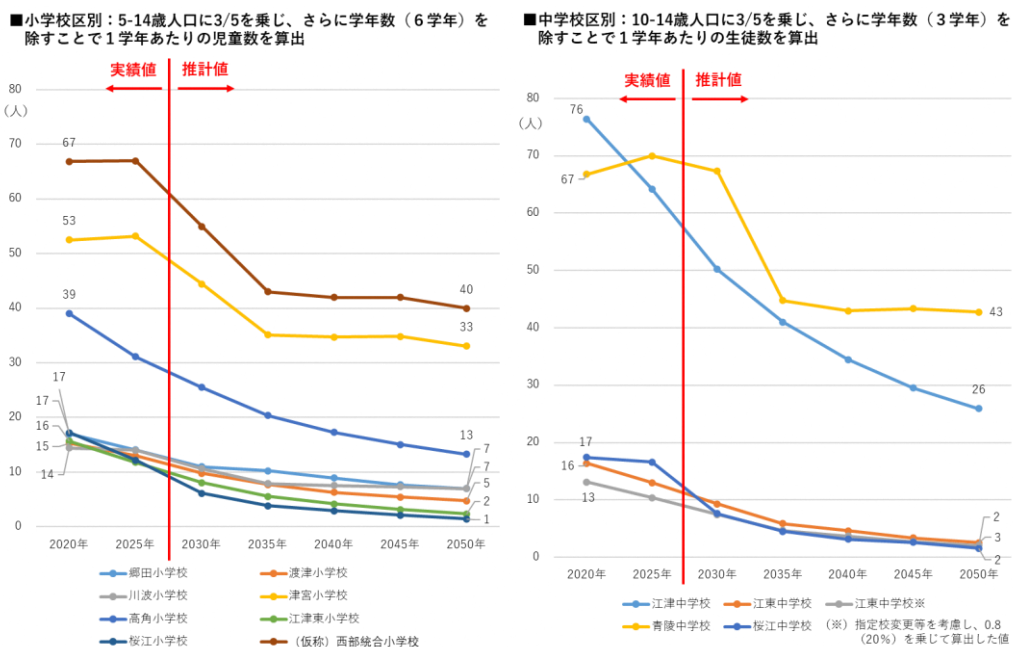


図 4-3 1 学年あたりの児童・生徒数の長期推計の結果

## 短期的な児童・生徒数の将来予測

令和8年5月1日時点での児童・生徒数は表4-2の通りです。

表4-2 令和8年度児童・生徒数

令和8年度 児童生徒数							R8.5.1現在	
小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	学級数
郷田小	4人	0人	12人	10人	12人	10人	48人	7
渡津小	8人	11人	10人	14人	10人	17人	70人	7
江津東小	6人	9人	14人	11人	11人	17人	68人	8
川波小	5人	17人	8人	15人	20人	7人	72人	9
津宮小	49人	54人	45人	51人	58人	60人	317人	15
高角小	33人	30人	46人	34人	32人	30人	205人	10
桜江小	6人	5人	12人	7人	12人	18人	60人	8
計	111人	126人	147人	142人	155人	159人	840人	64

中学校名	1年	2年	3年	小計	学級数
江津中	82人	63人	75人	220人	11
江東中	3人	10人	5人	18人	5
青陵中	66人	71人	69人	206人	8
桜江中	12人	15人	20人	47人	5
計	163人	159人	169人	491人	29

出典：江津市

複式学級については、渡津小学校、江津東小学校、桜江小学校において、令和12年前後に発生が見込まれています。

表4-3 複式学級の発生見込み

中部			東部	桜江
郷田小学校	渡津小学校	高角小学校	江津東小学校	桜江小学校
令和8年:48人 令和13年:75人	令和8年:70人 令和13年:42人 【複式学級発生見込み】 令和13年:3,4年生	令和8年:205人 令和13年:164人	令和8年:68人 令和13年:34人 【複式学級発生見込み】 令和10年:3,4年生 令和12年:5,6年生 令和13年:完全複式学校	令和8年:60人 令和13年:35人 【複式学級発生見込み】 令和10年:3,4年生 令和12年:5,6年生 令和13年:完全複式学校

### 想定進学者数と実進学者数の乖離

想定進学者数と実進学者数の乖離率を整理すると、江東中学校における乖離率が高い（実進学者数が想定進学者数よりも少ない）ことが確認されます。

これは中学校進学タイミングでの居住を伴う転居や、指定校変更などの理由が考えられます。

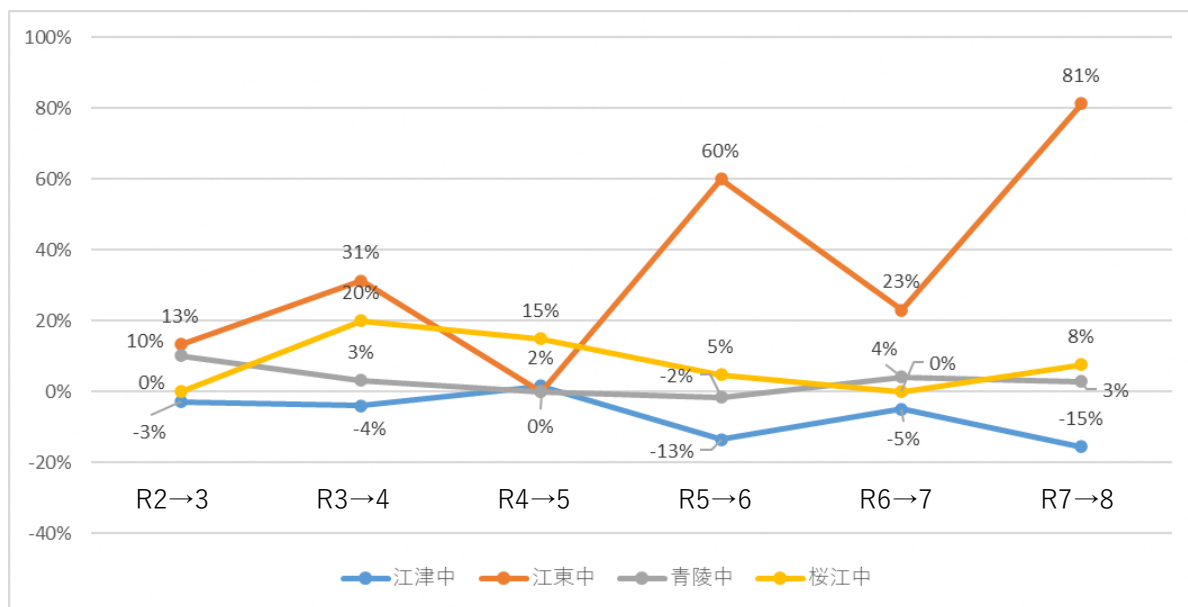


図 4-4 想定進学者数と実進学者数の乖離率

乖離率は想定進学者数（A）と実進学者数（B）の実数をもとに算出しています。

表 4-4 想定進学者数（A）と実進学者数（B）の実数

小学校	中学校	令和 2→ 令和 3 (小 6→中 1)		令和 3→ 令和 4 (小 6→中 1)		令和 4→ 令和 5 (小 6→中 1)		令和 5→ 令和 6 (小 6→中 1)		令和 6→ 令和 7 (小 6→中 1)		令和 7→ 令和 8 (小 6→中 1)	
		A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
郷田小	江津中												
渡津小		70	72	77	80	63	62	67	76	61	64	71	82
高角小													
江津東小	江東中	15	13	16	11	13	13	15	6	13	10	16	3
川波小	青陵中												
津宮小		49	44	64	62	56	56	66	67	73	70	68	66
桜江小	桜江中	15	15	15	12	20	17	21	20	16	16	13	12

出典：江津市

**【乖離率の算出方法】**

$$\text{乖離率} = \frac{\text{想定進学者数 (A)} - \text{実進学者数 (B)}}{\text{想定進学者数 (A)}}$$

## ii. 児童・生徒目線による基礎データ

### 部活動の実態

令和8年5月時点での江津市内の中学校別の部活動の実態は以下の通りで、将来的には生徒数の減少に伴い、集団競技の部活動の存続が危ぶまれます。

また、サッカーや野球などの既存の地域クラブ、柔道やバスケットボールなどの新たに組織された地域クラブへの加入者も増えつつあり、部活動への加入率は年々減少しています。

表 4-5 中学校別の部員数

学校名	生徒数	部活動										
		名称	部員内訳									男女合計
			男子				女子					
1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計					
江津 中学校	220	陸上	4	2	2	8	6	2	4	12	20	
		女子バレーボール					6	7	10	23	23	
		女子ソフトテニス					3	1		4	4	
		男子ソフトテニス	6	1	6	13					13	
		卓球	4	4	4	12	5	1	2	8	20	
		野球	8	6	7	21					21	
		サッカー			1	1					1	
		水泳		1		1					1	
		吹奏楽			2	2	4	4	4	12	14	
美術	2	1		3	4	8	2	14	17			
合 計 (加入率 62%)			24	15	22	61	28	23	22	73	134	
江東 中学校	18	女子ソフトテニス						2	2	4	4	
		卓球		4	3	7					7	
		吹奏楽						3		3	3	
合 計 (加入率 79%)				4	3	7		5	2	7	14	
青陵 中学校	206	陸上	2	1	8	11	3	1	7	11	22	
		女子バレーボール					1	5	3	9	9	
		女子ソフトテニス					5	4	5	14	14	
		男子ソフトテニス	2	3	7	12					12	
		卓球	6	2	1	9	2	7	4	13	22	
		野球	4	11	4	19					19	
		剣道	2	3		5		1	1	2	7	
		水泳	1			1	1		1	2	3	
		吹奏楽			1	1	8	9	1	18	19	
美術	1	3		4	2	5	5	12	16			
合 計 (加入率 70%)			18	23	21	62	22	32	27	81	143	
桜江 中学校	47	陸上	3	4	8	15					15	
		女子バレーボール					2	6	4	12	12	
		バドミントン							1	1	1	
		野球	1			1					1	
		吹奏楽	3	1	1	5	3	5	3	11	16	
合 計 (加入率 96%)			7	5	9	21	5	11	8	24	45	

※桜江中学校の野球部員は江津中学校の野球部に所属（拠点校方式）

**【認定地域クラブ】**

- ・江津柔道クラブ濱岡塾  
11人（男6人、女5人）  
1年生 4人（江津中：男2・女1、青陵中：女1）  
2年生 3人（江津中：女1、青陵中：男2）  
3年生 4人（江津中：男2・女2）
- ・江津女子バスケットボールクラブ アゼリアズ  
18人  
1年生 6人（全て江津中）  
2年生 5人（全て江津中）  
3年生 7人（全て江津中）
- ・男子バスケットボールクラブ 江津スターズ  
24人  
1年生 11人（江津中3、青陵中11）  
2年生 7人（全て江津中）  
3年生 6人（全て江津中）

出典：江津市

**部活動の地域連携**

中学校での部活動地域連携・地域展開のスケジュールは表4-6の通りで、地域の方の協力のもと部活動が行われています。

表 4-6 江津市部活動地域連携・地域展開スケジュール（令和6年度～令和9年度）

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
各中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合同部活動・拠点校方式の検討</li> <li>○保護者への周知・説明 ・江津市立中学校における部活動の地域連携・地域移行に係る方針を市教委HPに記載</li> <li>○中学校入学説明会での文書配布・tetoruでの配信</li> <li>○各部活動担当者からの意見徴収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合同部活動・拠点校方式の検討</li> <li>○PTA 総会等で部活動の地域連携・地域移行の方針概要の配布、周知</li> <li>○中学校入学説明会での文書配布・tetoruでの配信</li> <li>○各部活動の今後の方向性の検討 ・準部活動の今後の在り方検討、保護者説明</li> <li>○部活動後援会費の徴収と扱い検討（市中学校長会との連携）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合同部活動・拠点校方式の検討</li> <li>○PTA 総会等で部活動の地域連携・地域移行の方針等について配布・周知</li> <li>○中学校入学説明会での文書配布・tetoruでの配信</li> <li>○各部活動の今後の方向性の検討 ・準部活動の今後の在り方検討、保護者説明</li> <li>○部活動後援会費の徴収と扱い検討（市中学校長会との連携）</li> <li>・協議、R9 総会での承認準備、保護者周知等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合同部活動・拠点校方式の検討</li> <li>○PTA 総会等で部活動の地域連携・地域移行の方針等について配布・周知</li> <li>○中学校入学説明会での文書配布・tetoruでの配信</li> <li>○各部活動の対応 ・全中廃止・9競技の江津市関係競技対応（水泳、ハンド）</li> <li>○部活動後援会費の徴収と扱い検討（市中学校長会との連携）</li> <li>・R9 総会での承認、保護者周知等</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モデル地域クラブ・モデル部活動の検討 ・地域クラブ（柔道）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モデル地域クラブ・モデル部活動の検討 ・地域クラブ（柔道）の開始 ・新たな地域クラブ：女子バスケットの開始 ・男子バスケットクラブについての協議（R8 スタート予定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モデル地域クラブ・モデル部活動の検討 ・地域クラブ（柔道）、（女子バスケ）の運営 ・新たな地域クラブ：男子バスケットの開始 ・新たな地域クラブについての協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モデル地域クラブ・モデル部活動の検討 ・地域クラブ：柔道、男女バスケットの運営 ・新たな地域クラブについての協議</li> </ul>
モデル部活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点校部活動（陸上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点校方式部活動の開始（陸上・江津中） （指定校変更のため年度当初は運営なし）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点校方式の運営（陸上・江津中）</li> <li>・拠点校方式の新たな部活動の検討</li> <li>○土、日の部活動の段階的な地域連携・地域展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点校方式の運営</li> <li>・拠点校方式の新たな部活動の検討</li> <li>○土、日の部活動の段階的な地域連携・地域展開</li> </ul>
江津市中学校／部活動地域連携／検討協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回検討協議会（10/29） ・市内中学校部活動の現状の情報共有 ・国及び県の動向の確認 ・地域連携・地域移行に向けたスケジュール ・教職員、生徒、保護者を対象としたアンケート実施（R6.12～R7.1実施）</li> <li>○第2回検討協議会（R7.2/27） ・モデル地域クラブ、拠点方式等の検討について</li> <li>・江津市部活動の地域連携・地域移行の方針の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【年間3回の開催予定 5月、9月、2月】 ・市内中学校部活動の現状の情報共有 ・国及び県の動向の確認 ・地域連携・地域移行に向けたスケジュール ・今後の具体の取組 ・モデル地域クラブ、拠点方式等の検討について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【年間3回の開催予定 5月、9月、2月】 ・市内中学校部活動の現状の情報共有 ・国及び県の動向 ・地域連携・地域移行に向けたスケジュール ・今後の具体の取組 ・モデル地域クラブ、拠点方式等の検討について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【年間3回の開催予定 5月、9月、2月】 ・市内中学校部活動の現状の情報共有 ・国及び県の動向 ・地域連携・地域移行に向けたスケジュール ・今後の具体の取組 ・モデル地域クラブ、拠点方式等の検討について</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○受け皿、指導者の確保 ・市スポーツ協会、中学校体育連盟、吹奏楽連盟、各中学校各競技団体等との協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受け皿、指導者の確保 ・市スポーツ協会、中学校体育連盟、吹奏楽連盟、各中学校各競技団体等との協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○受け皿、指導者の確保 ・市スポーツ協会、中学校体育連盟、吹奏楽連盟、各中学校各競技団体等との協議</li> </ul>
専門部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】柔道（R6.12.12） 陸上競技（R6.12.6） ・モデル地域クラブ、モデル部活動（拠点校方式）の協議</li> <li>【第1回】柔道（R7.1.20） 陸上競技（R7.1.22） ・モデル地域クラブ、モデル部活動（拠点校方式）の協議</li> <li>※指導者の確保・練習会場・会費・保険等の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要に応じて年2～3回開催 ・江津柔道クラブ濱岡塾（実証事業）のサポートと課題整理</li> <li>・江津バスケットクラブ R7 女子スタート（中体連主催大会参加） R8 男子スタート予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要に応じて年2～3回開催 ・江津柔道クラブ濱岡塾のサポートと課題整理</li> <li>・江津バスケットクラブ R7 女子スタート（中体連主催大会参加） R8 男子スタート予定（中体連主催大会参加予定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要に応じて年2～3回開催 ・江津柔道クラブ濱岡塾のサポート</li> <li>・江津バスケットクラブ（男女）</li> </ul>
江津市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江津市中学校部活動地域連携検討協議会設置要綱策定</li> <li>・江津市中学校部活動地域連携検討協議会設置</li> <li>・江津市中学校部活動地域連携検討協議会委員の委嘱</li> <li>・江津市学校における部活動の地域展開方針策定</li> <li>・江津市中学校拠点校部活動実施要綱策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小中学校、市中学校長会、市中体連との連携</li> <li>・市スポーツ協会等との連携（休日受け皿調査など）</li> <li>・市内小学生のスポーツ団体等への加入状況調査</li> <li>・地域クラブとの連携</li> <li>・江津市中学校拠点校部活動実施要綱の加筆及び改定</li> <li>・鳥根県教育委員会、保健体育課との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小中学校、市中学校長会、市中体連との連携</li> <li>・市スポーツ協会等との連携</li> <li>・関係機関との連携による休日の受け皿についての具体策検討</li> <li>・地域クラブとの連携</li> <li>・事業主体として江津市中学校拠点校部活動の拠点校との連携</li> <li>・鳥根県教育委員会、保健体育課との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小中学校、市中学校長会、市中体連との連携</li> <li>・市スポーツ協会等との連携</li> <li>・関係機関との連携による休日の受け皿についての具体策検討</li> <li>・地域クラブとの連携</li> <li>・事業主体として江津市中学校拠点校部活動の拠点校との連携</li> <li>・鳥根県教育委員会、保健体育課との連携</li> </ul>

出典：江津市

## 不登校児童・生徒数の推移

児童・生徒数が減少してきているのに対し、市内の不登校児童・生徒の数はここ 10 年で増加傾向にあります。

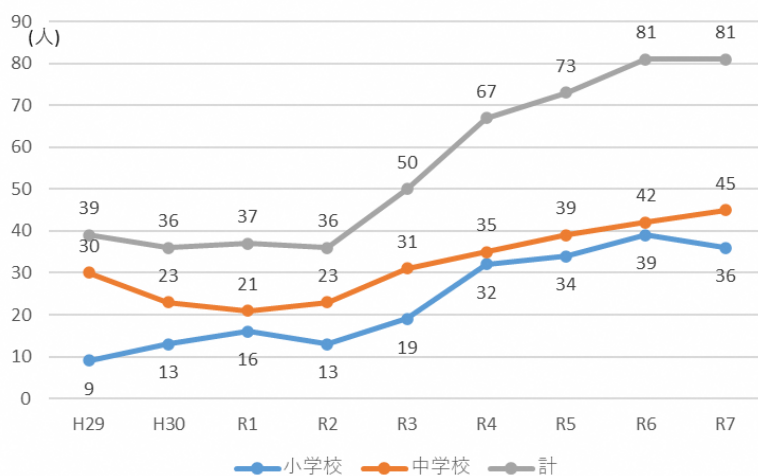


図 4-5 不登校児童・生徒数の推移

出典：江津市

全国の 1,000 人当たりの不登校児童・生徒数と比較すると、江津市の 1,000 人当たりの不登校児童・生徒数はどの年度においても全国を上回っていることが分かります。

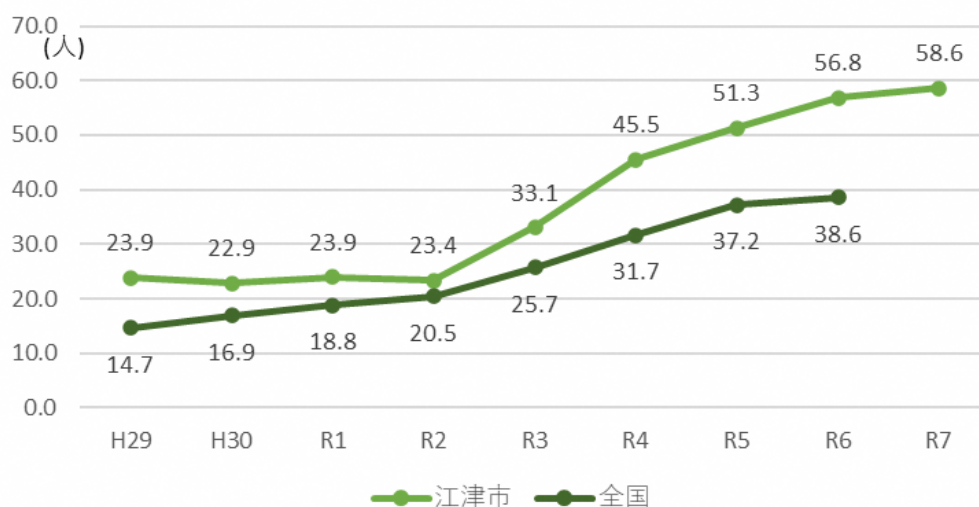


図 4-6 1,000 人当たりの不登校児童・生徒数の推移

出典：令和 6 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）

### iii. 地域目線による基礎データ

コミュニティ・スクールは、令和8年度にすべての小中学校への導入が完了し、学校と地域の更なる連携が期待されます。

表 4-7 コミュニティ・スクールの導入状況

学校名	導入年度	委員数	備 考
郷田小	令和8	11	
渡津小	令和8	12	
江津東小	令和7	11	
川波小	令和8	12	
津宮小	令和5	12	
高角小	令和8	11	
桜江小	令和7	11	桜江中と共同設置
江津中	令和7	8	
江東中	令和7	8	
青陵中	令和7	11	
桜江中			

出典：江津市

### iv. 行政目線による基礎データ

#### 普通教室・余裕教室の実態

江津市内の小中学校別の普通教室・余裕教室の実態は以下の通りです。

郷田小学校、渡津小学校、江津東小学校においては、半数以上が余裕教室となっていますが、児童クラブ等として活用されています。

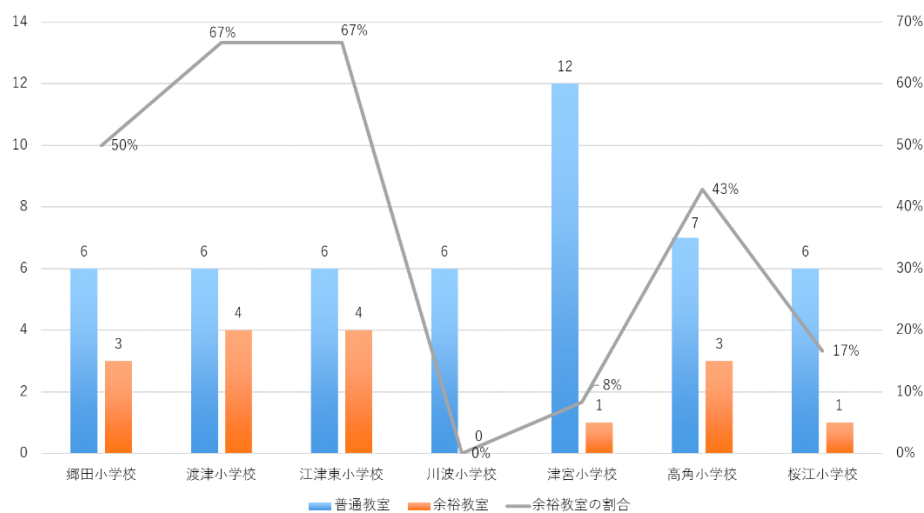


図 4-7 普通教室・余裕教室の実態

出典：江津市

## 建築物の概要

江津市内の小学校別の建築物（棟別）の概要より、建築年数が古い郷田小学校では、多くの棟が耐用年数を超過しており、老朽化が進行していることが確認されます。

表 4-8 小学校別の建築物（棟別）の概要

学校名	棟名称	総延床面積	階層数	建築年	経過年	残耐用年数	構造	耐震基準	耐震診断	耐震補強
郷田小学校	教室棟	914 m <sup>2</sup>	地上3階建て	S37	63	-16	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	教室棟	935 m <sup>2</sup>	地上3階建て	S44	56	-9	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	管理棟	653 m <sup>2</sup>	地上2階建て	S45	55	-8	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	給食室	100 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S62	38	9	鉄筋コンクリート造	新	実施	実施
	屋内運動場	934 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S29	71	-49	木造	旧	—	—
	プール付属屋	58 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S43	57	-23	鉄骨造	旧	実施	実施
	その他付属屋	19 m <sup>2</sup>	—	—	—	—	—	—	—	—
渡津小学校	管理棟	756 m <sup>2</sup>	地上3階建て	S46	54	-7	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	教室棟	1,486 m <sup>2</sup>	地上3階建て	S53	47	0	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	給食棟	231 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S53	47	0	鉄骨造	旧	実施	実施
	屋内運動場	544 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S47	53	-6	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	倉庫	40 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S56	44	3	鉄骨造	新	実施	実施
	その他付属屋 (プール)	76 m <sup>2</sup>	—	—	—	—	—	—	—	—
江津東小学校	教室棟	1828.53 m <sup>2</sup>	地上3階建て	S55	45	2	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	管理教室棟	1,225 m <sup>2</sup>	地上2階建て	S55	45	2	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	給食室	107 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S55	45	2	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	屋内運動場	974 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S55	45	-11	鉄骨造	旧	実施	実施
	プール付属屋	128 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S55	45	-11	鉄骨造	旧	実施	実施
	その他付属屋 (倉庫棟)	124 m <sup>2</sup>	—	—	—	—	木造・S造・プレハブ	—	—	—

出典：江津市公共施設白書（平成26年3月）

川波小学校、津宮小学校、高角小学校では、耐震診断が実施されているものの、建築年数が古いため老朽化が進行していることが確認されます。

表 4-9 小学校別の建築物（棟別）の概要

学校名	棟名称	総延床面積	階層数	建築年	経過年	残耐用年数	構造	耐震基準	耐震診断	耐震補強
川波小学校	教室棟	522 m <sup>2</sup>	地上 2 階建て	S40	60	-13	鉄筋コンクリート造	旧	—	—
	教室棟	700 m <sup>2</sup>	地上 2 階建て	S56	44	-3	鉄筋コンクリート造	新	実施	実施
	教室棟	783 m <sup>2</sup>	地上 2 階建て	S58	42	-5	鉄筋コンクリート造	新	実施	実施
	教室棟	843 m <sup>2</sup>	地上 2 階建て	S60	40	-7	鉄筋コンクリート造	新	実施	実施
	屋内運動場	30 m <sup>2</sup>	地上 1 階建て	S28	72	-50	木造	旧	—	—
	その他付属屋 (倉庫)	30 m <sup>2</sup>	地上 1 階建て	S60	40	-18	木造	新	実施	実施
津宮小学校	管理教室棟	1,468 m <sup>2</sup>	地上 2 階建て	S35	65	-18	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	教室棟	1,630 m <sup>2</sup>	地上 3 階建て	S35	65	-18	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	音楽室	230 m <sup>2</sup>	地上 1 階建て	S35	65	-31	鉄骨造	旧	実施	実施
	屋内運動場	560 m <sup>2</sup>	地上 1 階建て	S36	64	-17	鉄筋コンクリート造	旧	—	—
	付属屋	133 m <sup>2</sup>	地上 1 階建て	S36	64	-30	鉄骨造	旧	実施	実施
	その他付属屋	62 m <sup>2</sup>	—	—	—	—	—	—	—	—
高角小学校	管理棟	920 m <sup>2</sup>	地上 2 階建て	S47	53	-6	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	教室棟	1,675 m <sup>2</sup>	地上 3 階建て	S48	52	-5	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	昇降機棟	214 m <sup>2</sup>	地上 1 階建て	S48	52	-5	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	教室棟	240 m <sup>2</sup>	地上 3 階建て	S63	37	10	鉄筋コンクリート造	新	実施	実施
	屋内運動場	647 m <sup>2</sup>	地上 1 階建て	S48	52	-18	鉄骨造	旧	実施	実施
	プール付属屋	54 m <sup>2</sup>	地上 1 階建て	S50	50	-16	鉄骨造	旧	実施	実施
	その他付属屋	20 m <sup>2</sup>	地上 1 階建て	S62	38	-16	木造	新	実施	実施
桜江小学校	管理教室棟	3,210 m <sup>2</sup>	地上 2 階建て	H13	24	23	鉄筋コンクリート造	新	実施	実施
	屋内運動場	1,386.08 m <sup>2</sup>	地上 2 階建て	H15	22	25	鉄筋コンクリート造	新	実施	実施
	プール付属屋	95 m <sup>2</sup>	地上 1 階建て	H14	23	24	鉄筋コンクリート造	新	実施	実施
	その他付属屋	269.8 m <sup>2</sup>	—	—	—	—	—	—	—	—

出典：江津市公共施設白書（平成 26 年 3 月）

中学校については4校すべて耐震診断は実施されており、耐震化が完了しています。

表 4-10 中学校別の建築物（棟別）の概要

学校名	棟名称	総延床面積	階層数	建築年	経過年	残耐用年数	構造	耐震基準	耐震診断	耐震補強
江津中学校	管理教室棟	5,024 m <sup>2</sup>	地上3階建て	H21	16	31	鉄筋コンクリート造	新		
	屋内運動場	2,544 m <sup>2</sup>	地上3階建て	H21	16	31	鉄筋コンクリート造	新		
	部室	535 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H21	16	31	鉄筋コンクリート造	新		
	機会室	35 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H21	16	31	鉄筋コンクリート造	新	実施	実施
	倉庫	60 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H21	16	14	コンクリートブロック造	新		
	部室	32 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H22	15	7	木造	新		
	倉庫	9 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H22	15	19	鉄骨造	新		
江東中学校	管理教室棟	2,619 m <sup>2</sup>	地上3階建て	H4	33	14	鉄筋コンクリート造	新		
	屋内運動場	1,125 m <sup>2</sup>	地上2階建て	H5	32	15	鉄筋コンクリート造	新	実施	実施
	部室	178 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H5	32	-10	木造	新		
	倉庫	40 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H5	32	-10	木造	新		
青陵中学校	校舎棟	5,006 m <sup>2</sup>	地上3階建て	H14	23	24	鉄筋コンクリート造	新		
	屋内運動場	2,684 m <sup>2</sup>	地上3階建て	H14	23	11	鉄骨造	新		
	プール付属屋	80 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H14	23	11	鉄骨造	新	実施	実施
	自転車置場	271 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H15	22	0	木造	新		
	車庫・倉庫	142 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H14	23	-1	木造	新		
	倉庫	10 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H15	22	0	鉄骨造	新		
桜江中学校	校舎棟	2,358.9 m <sup>2</sup>	地上3階建て	S50	50	-3	鉄筋コンクリート造	旧		
	調理実習室	114 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S50	50	-3	鉄筋コンクリート造	旧		
	家庭科・技術棟	307.6 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S50	50	-16	鉄骨造	旧		
	屋内運動場	1,305.35 m <sup>2</sup>	地上2階建て	S52	48	-1	鉄筋コンクリート造	旧	実施	実施
	倉庫	287 m <sup>2</sup>	地上1階建て	S54	46	1	鉄筋コンクリート造	旧		
	グラウンド便所	74.11 m <sup>2</sup>	地上1階建て	H2	35	-5	コンクリートブロック造	新		
	その他付属屋	45.5 m <sup>2</sup>	-	-	-	-	-	-		

出典：江津市公共施設白書（平成26年3月）

## (2) アンケート調査結果

令和8年1月に実施したアンケート調査の対象者数、回収数、回収率は表4-11の通りとなりました。以下に主要な結果を抜粋して示します。

表 4-11 アンケート概要

区分	対象者数	回収数	回収率
小学生	465	374	80.4%
中学生	477	235	49.3%
高校生	173	99	57.2%
保護者	867	479	55.2%
教職員	184	151	82.1%

### 進学したい中学校 【回答者：小学生】 (単一回答)

全体として、校区にある中学校が選択されています。

学校別にみると、郷田小学校では約20%が町外に進学する意向があります。また江東中学校区である江津東小学校では、約2/3が江津中学校への進学を希望する状況となっています。

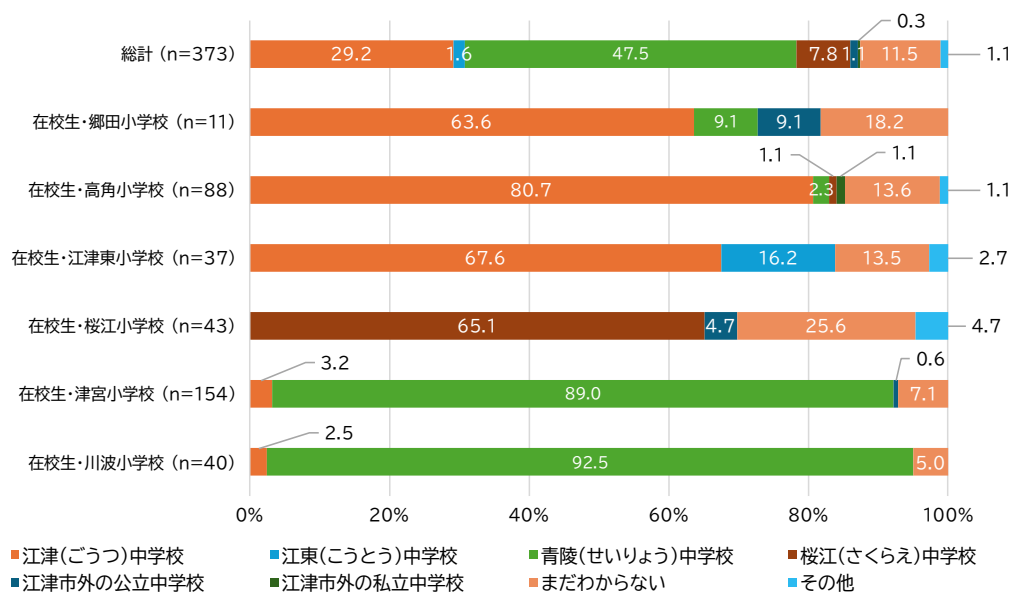


図 4-8 進学したい中学校

### 現在居住中の小学校区の再編についての意向 【回答者：保護者】（単一回答）

全体として「統合を検討したほうがよい」「現状のままでよい」はほぼ1：1となっています。

校区別では、郷田小学校区は「統合を検討」が約80%と突出する一方、江津東小学校区、川波小学校区、津宮小学校区、桜江小学校区では35%前後にとどまるなど、校区によって意向が異なります。

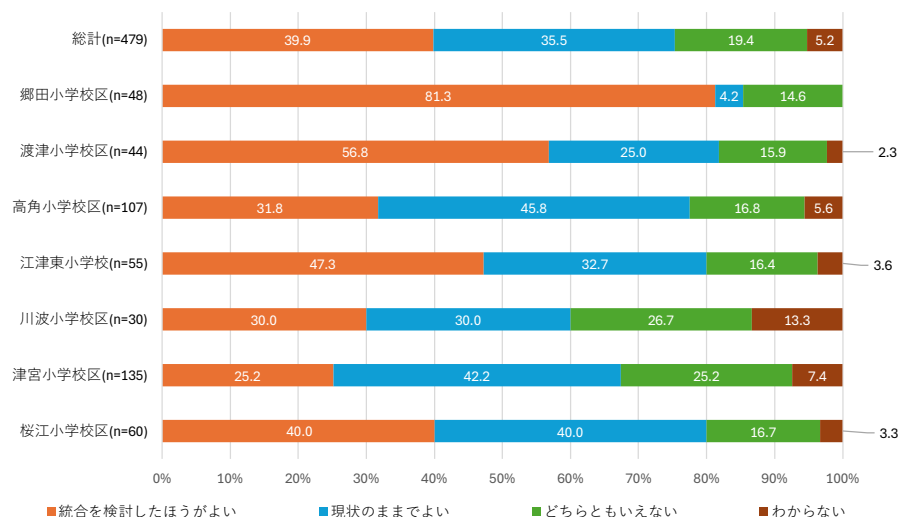


図 4-9 現在居住中の小学校区の再編についての意向

### 現在居住中の中学校区再編についての意向 【回答者：保護者】（単一回答）

全体として「現状のままでよい」が約50%と最も高くなっています。

校区別では、青陵中学校区と江津中学校区で「現状のままでよい」が50%以上となる一方、江東中学校区と桜江中学校区では「統合を検討したほうがよい」が50%と、校区によって意見に差がみられます。

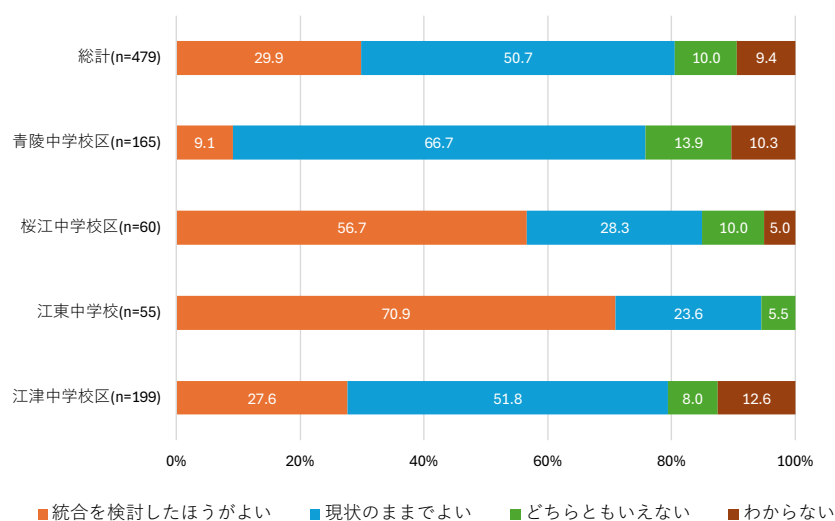


図 4-10 現在居住中の中学校区再編についての意向

## 現在居住中の中学校区再編についての意向の理由（統合を検討）【回答者：保護者】（複数回答）

全体として「児童数が減少しており、現在の学校規模の維持が難しい」、「クラブ活動や学校行事などが行いにくい」の割合が比較的高くなっています。

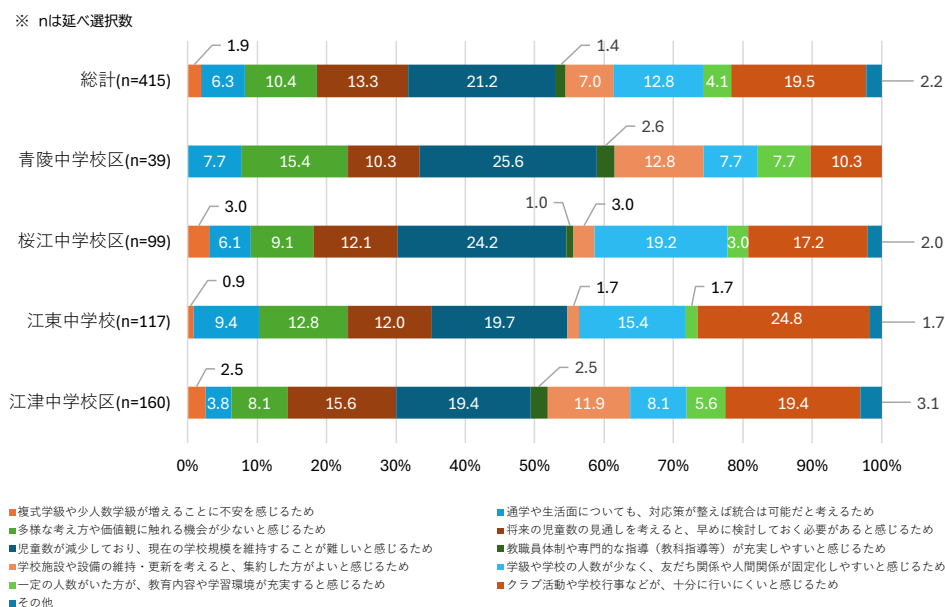


図 4-11 統合を検討する理由

## 財政状況を理由とする学校再編に対する意向【回答者：保護者】（単一回答）

全体として、「理由になると思う」が約 50%となっています。

校区別では、川波小学校区と桜江小学校区では「理由にならないと思う」がいずれも 16.7%と、他校区よりやや高くなっています。

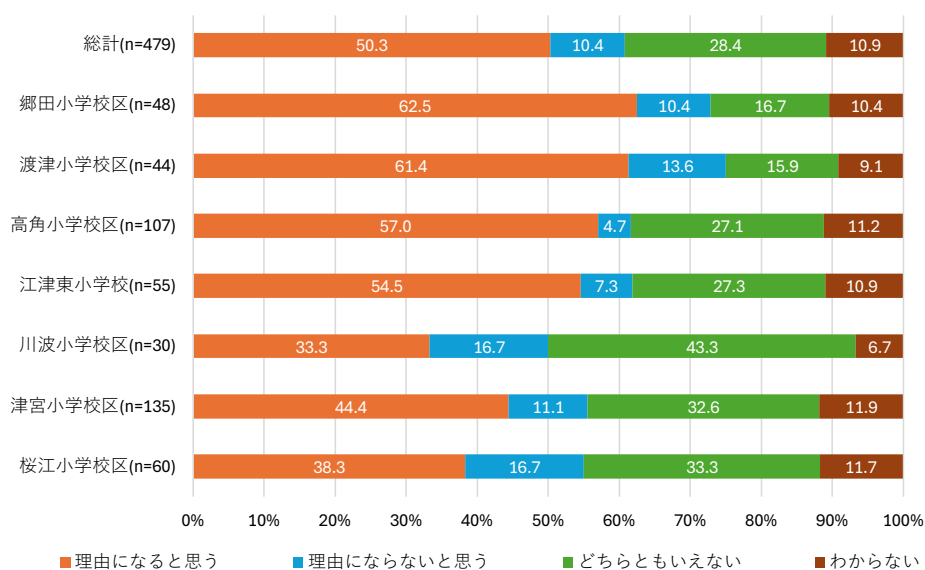


図 4-12 財政状況を理由とする学校再編に対する意向

### 施設老朽化を理由とする学校再編に対する意向【回答者：保護者】（単一回答）

全体として、「理由になると思う」が2/3となっています。

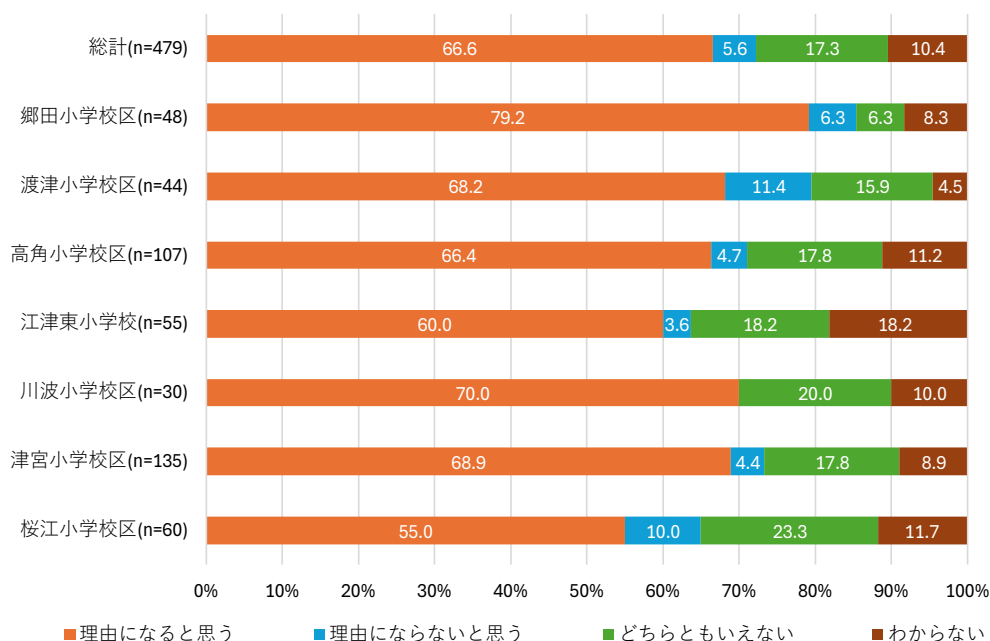


図 4-13 施設老朽化を理由とする学校再編に対する意向

### 学校再編を進める上で気になること【回答者：保護者】（複数回答）

全体として、「通学手段や通勤手段」、「学校の位置」が約50%となっています。

※ nは延べ選択数

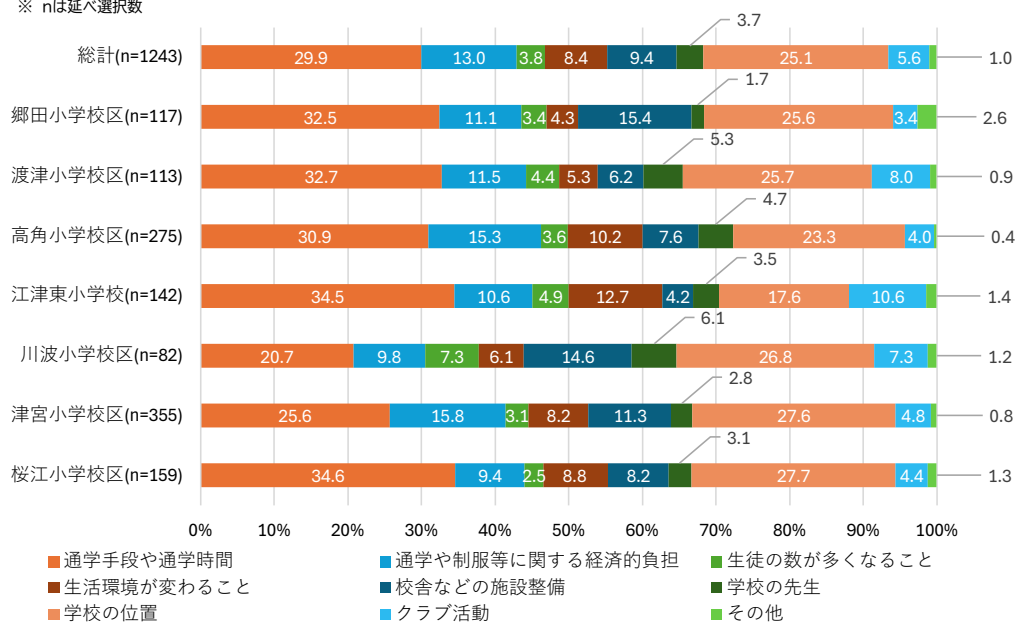


図 4-14 学校再編を進める上で気になること

### 中学校進学にあたっての指定校変更の意向【回答者：保護者】（単一回答）

全体として、「思う」は約 10%となっています。

校区別では、江津東小学校区、桜江小学校区で「思う」の割合が高くなっています。

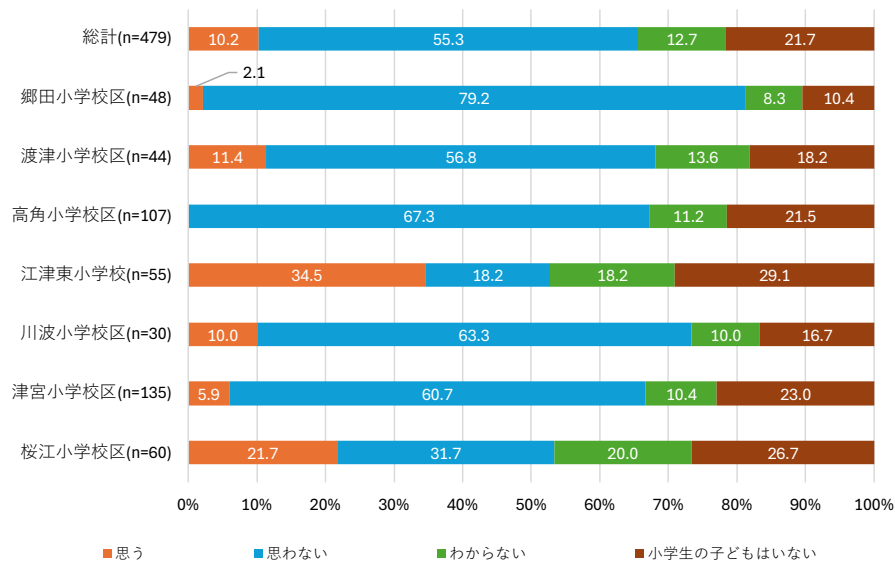


図 4-15 中学校進学にあたっての指定校変更の意向

### 中学校進学にあたっての指定校変更を希望する理由【回答者：保護者】（複数回答）

全体として、「部活動の種類や活動環境が充実している学校を希望」が 31%と最も高く、次いで「より人数が多い学校で、多様な友だち関係を築けると感じるため」が 25.9%となっています。

校区別では、川波小学校区、津宮小学校区、では「学校の雰囲気や教育方針が、子どもに合っていると感じるため」の割合が高くなっています。

※ nは延べ選択数

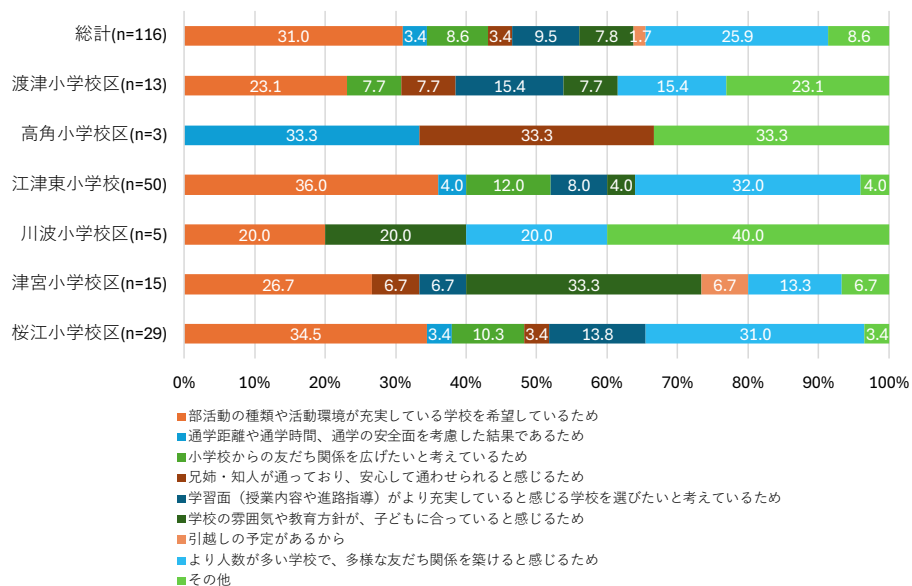


図 4-16 中学校進学にあたっての指定校変更を希望する理由

### 小中学校における望ましい学級数 【回答者：小中高生】（単一回答）

小中高生の意見では、小学校の望ましい学級数について、学校ごとに差はありますが、1学年2学級が望ましいという意見が最も多くなっています。

中高生の意見では、中学校の望ましい学級数について、小学校同様、1学年2学級が望ましいという意見が最も多くなっています。

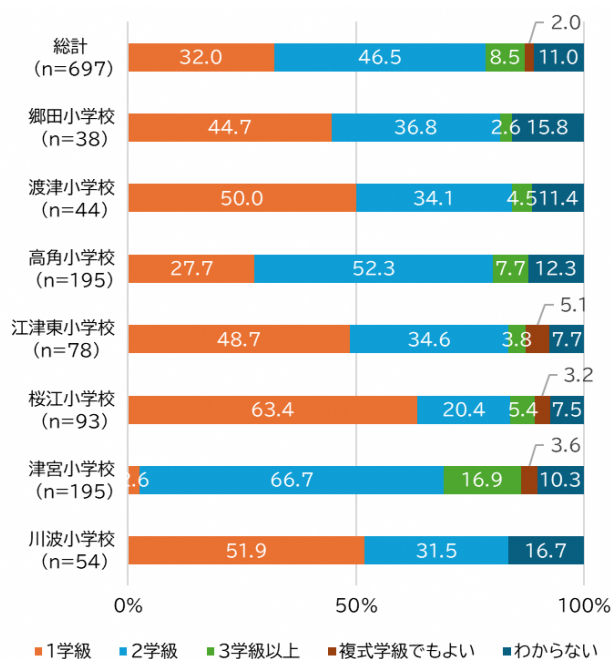


図 4-17 小学校の望ましい学級数

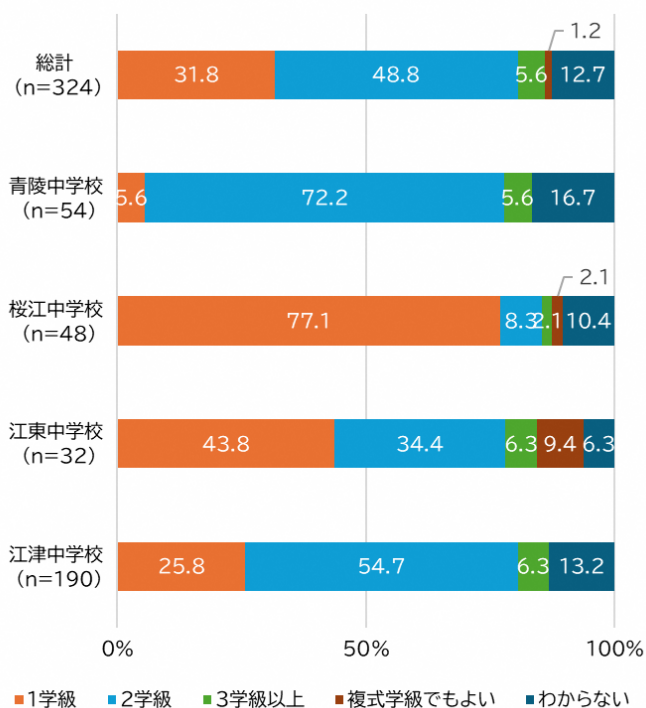


図 4-18 中学校の望ましい学級数

### 小中学校における望ましい学級数 【回答者：保護者】（単一回答）

保護者の意見では、小学校、中学校ともに 1 学年 2 学級が望ましいと考えている保護者が最も多くなっています。複式学級でもよいと考えている保護者も、小学校においては低い水準ですが一定の割合を占めています。

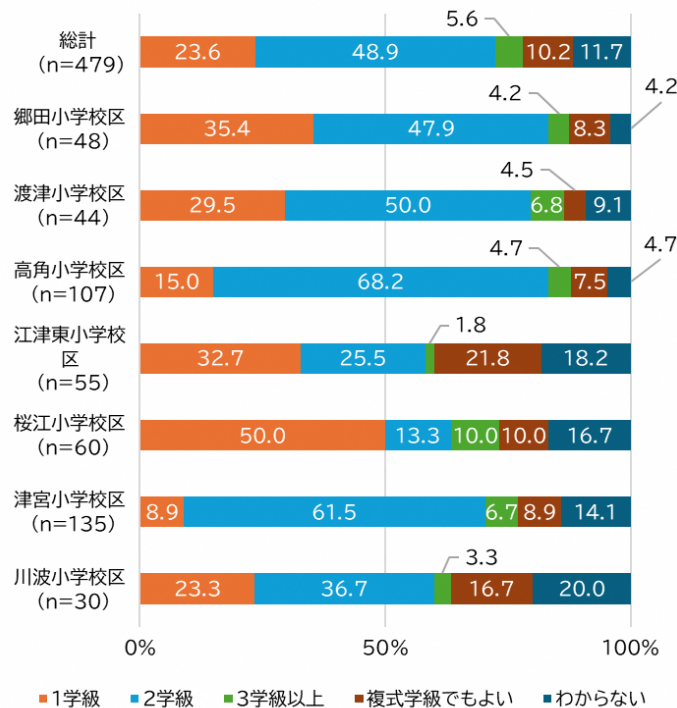


図 4-19 小学校の望ましい学級数

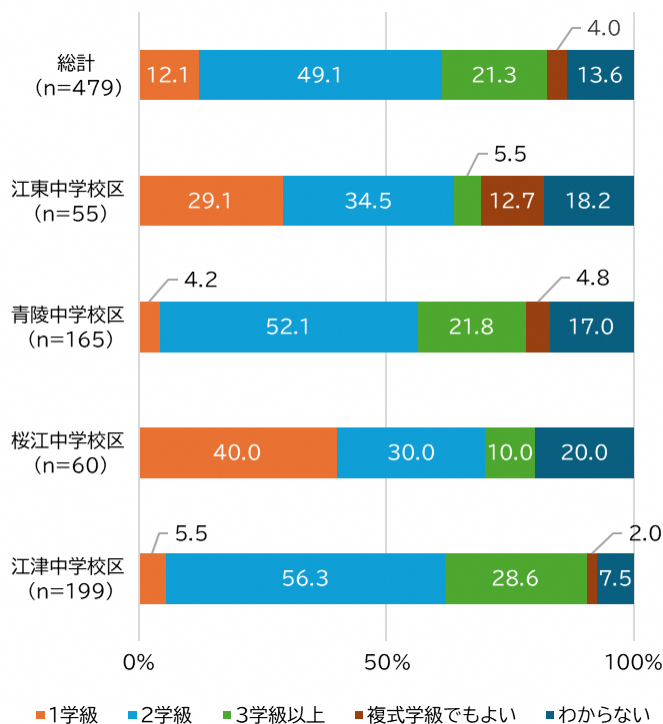


図 4-20 中学校の望ましい学級数

### 小中学校における望ましい学級数 【回答者：教職員】（単一回答）

教職員の意見では、7割の教職員が小学校では1学年2学級が望ましいと考えています。中学校においては8割の教職員が2学級以上が望ましいという意見です。

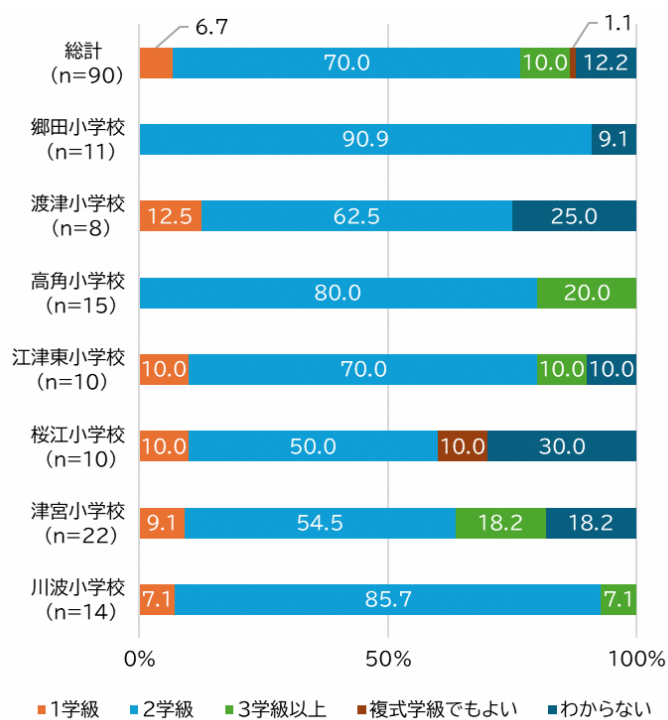


図 4-21 小学校の望ましい学級数

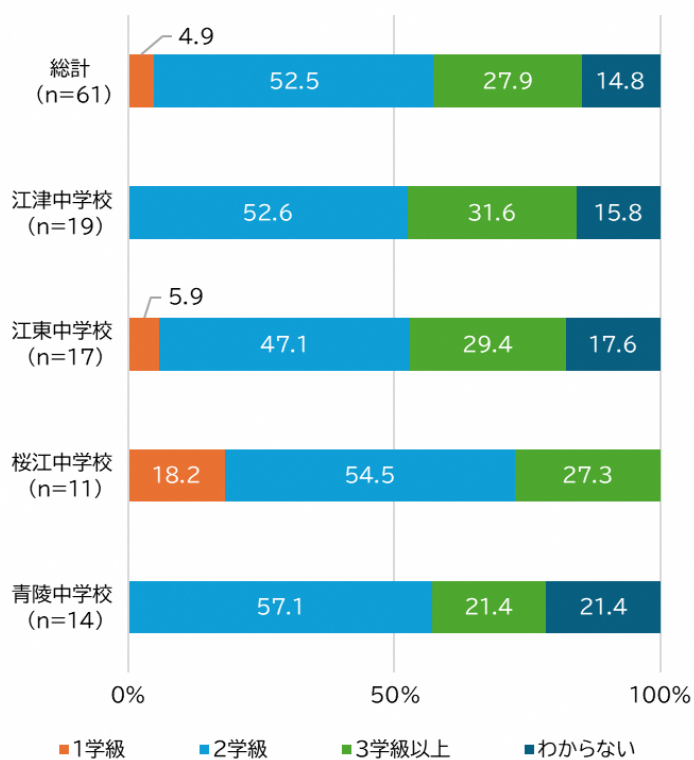


図 4-22 中学校の望ましい学級数

### (3) 地域コミュニティヒアリング

令和8年1月に、全20地区の団体代表者（不在の場合は代理人）に対して、地域コミュニティヒアリングを実施しました。意見の概要は以下の通りです。

学校統廃合について

- ・統廃合にあたっては、当事者である児童・生徒、保護者の意見が尊重されるべき
- ・学校跡地の活用については、過去の統合経験から、地域で施設を受け入れるか否か、徹底的に議論した上で慎重に判断すべき 等

学校と地域の関わりの現状と課題認識

- ・教員の働き方改革により、学校側からの相談が減っている
- ・教員と地域のコミュニケーション不足を懸念 等

### (4) 結果の考察

アンケート結果より、再編を考える理由としては、児童・生徒数の減少による学校規模維持の難しさや、部活動・学校行事への影響が挙げられています。再編に際しては通学手段や学校の位置への関心が高くなっています。

地域コミュニティヒアリングでも声があったように、再編にあたっては当事者である児童・生徒、保護者の意見を尊重し、合意形成を図っていくことが求められます。

## 5. 江津市が目指す学校教育と学習環境

江津市教育大綱に定めた教育ビジョンの実現に向けて、本市では以下の4つの方針に基づき教育・学習環境の整備を行っていきます。

### (1) 主体的、協働的に学び続ける人づくりの推進

一人一人が自分で考え、他者と一緒に学び合いながら自己実現に向けて行動する力を育みます。具体的な方針として、以下の3つに基づき推進します。

- ・ 自立した学ぶ力を育む教育の推進
- ・ 豊かな心、健やかな体の育成
- ・ 教育の場を通じた「つながり」「学び合い」の充実

### (2) 地域とともに新しい価値を創造する人づくりの推進

自分の考えに固執することなく、地域社会の様々な考えを受け入れながら、新しい価値を生み出す力を育みます。具体的な方針として、以下の4つに基づき推進します。

- ・ 地域に学び、地域に誇りをもつための教育の推進
- ・ 子どもの育ちを支えるネットワークの確立
- ・ 文化芸術・スポーツ活動の振興
- ・ イノベーションを担う人材の育成

### (3) 多様性を認め、自他を尊重する人づくりの推進

様々な生き方を認めながら、自己理解を深め、他者も尊重する力を育みます。具体的な方針として、以下の3つに基づき推進します。

- ・ 共生社会の実現に向けた教育の推進
- ・ 自他を尊重する心の育成
- ・ 多様なニーズに対応した学習機会の提供

### (4) 学びの環境整備及び体制づくりの推進

教育大綱で掲げる教育ビジョンを実現するため、基礎となる学びの環境・体制を整備していきます。具体的な方針として、以下の3つに基づき推進します。

- ・ ICT活用のための基盤整備
- ・ 子どもたちが安全・安心に過ごすことのできる環境・体制づくり
- ・ 「学びの保障」を支える体制整備

## 6. 第3次江津市学校整備再編を検討するにあたって考慮すべき事項

本市の目指す学校教育と学習環境の実現に向けて、学校整備再編に際して、以下に示すことが考慮すべき事項となります。

### (1) 学校教育の充実に向けた新たな学びの形について

学校教育の充実に向けては、複式学級、分校、小中一貫校、義務教育学校等の複数の新たな学びの形が考えられ、その概要は以下のとおりです。

市民アンケート調査（令和8年2月）によれば、小中学校における望ましい学級数として、「複式学級でもよい」と回答した保護者の割合は小学校で約10%、中学校で約4%であり、中学生・高校生の場合は小学校で約2%、中学校で約1%、教職員の場合は小学校で約1%、中学校で0%となります。

地域コミュニティへのヒアリングでは、学校整備再編に際して、保護者と子どもの意見が尊重されるべき、という意見もあります。

こうした市民の意見も尊重した新たな学びの形を検討していくことが重要です。一方で、将来的には、国立社会保障・人口問題研究所による推計では、令和7年には市内に1,339人いる児童・生徒が、令和22年には約4割減少し、807人となる推計が出ています。人口が減り続ける未来は変わらないため、新たな学びの形について、柔軟に検討していくことも必要です。

表 6-1 新たな学びの形の例

	法的地位・校長	教育の連続性・ カリキュラム	児童生徒の 人間関係	教職員の 負担・運営
複式学級	現状のまま 1名	A・B年度方式による合同学習	異年齢交流は活発だが関係固定化	複数学年同時指導の高い技術が必要
分校	本校の一部 本校校長	本校と同一の教育方針	本校との合同行事での交流	本校・分校両方の管理負担増
小中一貫校	別々の学校 小中各1名	9年間を見通した連携カリキュラム	中1ギャップの緩和	小中間の事務・会議の二重化
義務教育学校	1つの学校 1名	9年間完全一元化(4-3-2制等)	1~9年生の幅広い交流・ロールモデル	組織融合・会議時間確保が難航
授業時数特例校	現状のまま 1名	学校や地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するため授業時数の配分を柔軟化(教科横断・重点化が可能)	特色ある学びによる主体的な関係づくりの促進	カリキュラム設計・評価方法の工夫に負担
学びの多様化学校	現状のまま 1名	不登校特例校とも呼ばれ、個別最適な学び・柔軟な教育課程を実施(登校形態も多様)	少人数・安心できる関係性の構築を重視	個別対応の増加・外部連携(福祉等)の必要性
小規模特認校	現状のまま 1名	地域資源の活用など、地域の特色を活かした教育を実施(校区外からの通学も可能)	少人数による密な関係・異学年交流が活発	少人数ゆえの役割多重化・教員負担増の可能性

出典：文部科学省資料を基に整理

## (2) 地域の実態に応じた学校の適正配置について

保護者アンケート調査(令和8年2月)によれば、学校再編を進める上で気になることとして、「通学手段や通学時間」と回答する市民割合が約30%と最大です。学校の適正配置に際しては、保護者・子どもの負担増加を小さくし、適切なサポートの仕組みを検討することが必要です。

## (3) 学校と地域との連携・協働について

学校教育活動や地域活動において、学校と地域の連携・協働は欠かせません。一方で、地域コミュニティへのヒアリングに基づけば、新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけに、学校と地域のつながりが低下したとの指摘もあります。

学校と地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組む仕組みである「学校運営協議会(コミュニティ・スクール)」と連携し、学校と地域との連携・協働を強化していくことが重要です。

#### (4) 学校施設の整備・管理について

本市では、建築後 47 年以上を経過する学校施設が一定数存在し、老朽化が進行しており、継続的な修繕等を行っていますが、このままでは児童・生徒等の安全面が危惧される学校施設も存在します。

保護者アンケート調査（令和 8 年 2 月）によれば、「施設老朽化を理由とする学校再編は理由になる」と回答する市民割合は約 67%と一定の理解が得られている状況です。児童・生徒等の安全な教育環境を確保するためにも、財政状況も踏まえつつ、学校施設の大規模改修・新築等を検討することも重要です。

近年、世界的な原材料及び原油等エネルギーの品不足や価格高騰・円安の影響を受けて、建設工事の資材価格等の高騰、政府の賃上げの方針や労務単価の引き上げ等を受けて、建設現場で働く建設技能労働者の賃金も上昇しています。学校施設の整備に際しては、企画段階から維持管理までのライフサイクルコストの低減等を図り、PPP・PFI 手法を活用して、VFM（Value for Money）を最大化していくことも必要です。

#### (5) 学校跡地の活用について

学校は児童生徒の教育の場であることに加え、防災拠点等様々な役割を担う地域コミュニティにおける拠点であり、廃校により生じる学校跡地の活用方針も検討し、必要に応じて、新たな賑わいを生み出す拠点づくりに取り組むことも必要です。

特に、放課後の子供達の地域における居場所を確保することは地域コミュニティを維持する観点からも重要です。

## 7. 第3次江津市学校整備再編に向けた基本的な考え方

### (1) 学校教育の充実に向けた新たな学びの形について

市民アンケート調査の結果を踏まえて、①現に複式学級となっている場合は、複式学級の解消、②複式学級となる可能性がある場合は、複式学級の防止を基本とします。

ただし、将来的に児童・生徒数が減少し続けることは今後も変わりません。地域の特性や状況を踏まえて、計画期間中であっても、柔軟に新たな学びの形を市民との対話により検討していきます。

### (2) 地域の実態に応じた学校の適正配置について

通学に関する保護者や児童・生徒の負担軽減を図る観点から、通学距離や時間に配慮した学校配置を検討します。

小学校で3km、中学校で5kmを超える場合に限らず、地理的条件や地域特有の交通事情を考慮して、スクールバスの運行等により適切な支援を行います。また、スクールバスについては全国的にもその担い手の確保が困難となっている状況を踏まえ、その地域の公共交通機関を含めて検討したりするなどの工夫も行っています。

### (3) 学校と地域との連携・協働について

「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」については、市内すべての小中学校への導入が完了しています。今後は、地域と学校が連携・協働しながら、教育活動のさらなる充実と地域全体で子どもを育てる体制の強化を図っていきます。

### (4) 学校施設の整備・管理について

学校施設の大規模改修・新築等に際しては、PPP・PFI手法を活用することによりコストを削減し、効率的かつ持続可能な施設運営を行っていくことが重要と考えます。

また、施設整備に際しては、学校教育の充実や教職員の業務負担軽減、公共交通を含めた移動手段の確保等の観点から、複数の学校施設や他の公共施設との複合化・共用化の検討をすることも有用です。ただし、複合化・共用化に当たっては、学校以外の施設の利用者が存在することを踏まえ、児童・生徒の安全確保にも十分留意することが必要です。

### (5) 学校跡地の活用について

学校統合等により生じる跡地については、活用の可否を含めた多角的な検討を行い、地域の実情やニーズを踏まえた上で、今後の方針を示していきます。

## 8. 第3次江津市学校整備再編の進め方

今後は基本方針（令和8年度策定）に基づいて、具体的な整備内容やスケジュール等を示す第3次基本計画を策定していきます。

第3次基本計画の策定に際しては、保護者や地域の方等との対話集会を開き、丁寧な合意形成を行っていきます。

第3次基本計画の策定後は、準備委員会・ワーキンググループ等を立ち上げ、議論を進めていきます。